

倉吉市議選の運動  
倉吉市議選の運動

# 活用陣営は一部

## スタッフ多くが「効果に疑問」

6日投票の倉吉市議選は、鳥取県内の地方選で初めてインターネットを活用した選挙運動が行えるが、取り組んでいる陣営は一部にとどまっている。多くの陣営は「効果に疑問」としており、ネットを扱うスタッフや環境が十分でないことなどが理由だ。ただ、活用している陣営は票の上積みに期待している。

「スタッフがいらない。今回は様子見だ」と現職。普段の生活や議会活動にネットを活用しているが、選挙期間中にウェブサイトを更新するのは難しいとして



ネット選挙について説明する行政機関の資料

見送った。別の現職は「禁止行為が分かりにくく、選挙違反が怖い」と理由を説明した。ネット選挙運動は、公職選挙法の改正でこ

し夏の参院選以降解禁になった。ホームページやブログなどウェブサイトを利用した選挙運動が可能。しかし、候補者に許されているメールを使った選挙運動が支援者には禁止されているなど複雑な点が多いと指摘されてお

り、複数の陣営はマイナス面が大きいと判断している。また、ベテランの現職は「田舎の選挙では顔を知らない人には票を入れない。効果はない」と述べ、実際に会って支持を求める必要性を訴えた。

一方、ネット選に取り組む陣営も「効果は未知数」というのが本音。ただ激戦の中、1票の上積みで当落が変わるとの期待があり、候補者自身が休憩時間を削ってウェブサイトを更新している。

ある現職は専門業者の指導を受けてブログに選挙活動を頻繁にア

ップ。ポスターや選挙公報にはブログに誘導するQRコードを入れる工夫も。反応する人は限定的だが、閲覧数は増えているという。さらに、ある新人は「選挙活動は名前の連だ」と話した。